

丹後、元伊勢の地の神社めぐり 「丹後の徐福」 関連報告

津越

神奈川徐福研究会定例会 141119

1、伊勢神宮のはじまり

伊勢の神宮は

内宮（皇大神宮＝天照大御神）、外宮（豊受大神宮＝豊受大神）の御正宮（2）の他別宮（14）や摂社末社・所管社（109）の125社で構成されている。

もともと、天照大御神は倭の皇居内の天皇のお傍に祀られていた。

しかし、第10代崇神天皇の御代、国内に疫病が広がり、国土も人心も荒れ、天皇は天神地祇に祈られたが、天皇は皇居内の神の勢いを畏れたため、皇居を出てふさわしい鎮座の場所を探すことになった。

皇女、豊鋤入姫命が奉斎の役となり、倭笠縫邑に奉遷し、大御神を祀った。

その後、丹波の吉佐宮（よさのみや）に遷幸（39 壬戌年＝59BC）し、4年間奉斎した。

（このとき豊宇介神が大御神に御饗を奉る。）

さらに大御神の大宮処を求めて、倭、紀伊、吉備と遷幸した。



豊鋤入姫命の巡幸の足取り

その後、この役目は 第11代垂仁天皇の皇女、倭姫命に引き継がれ、さらなる鎮座地を求めて諸国を遷幸し、大和、伊賀、近江、美濃、鈴鹿を巡り、ついに伊勢に至った。

そして、倭姫命は「この神風の伊勢の国は、常世の浪の重浪よする国なり。傍国のうまし国なり。この国に居らむと欲ふ」との大御神のご神託を受け、

五十鈴川のほとりに皇大神宮（今の内宮）を創建し、天照大御神をお祀りした。（26 丁巳年＝4BC）いまから約 2,000 年前のことである。



倭姫命の巡幸の足取り

そして約 500 年経った第21代雄略天皇の御代に、天皇の夢に天照大御神が現れ、「自分ひとりだけにいるのはとても辛いばかりでなく、食事も安らかに摂ることができない。丹波国にいる我が御饗都神である等由気大神を連れてきてほしい」と仰せられた。

そして、雄略天皇 22 年 (AD.478) 7 月 7 日、内宮に近い山田の地に豊受大神をお祀りした。これが伊勢神宮の外宮（豊受大神宮）である。

今から約 1,500 年前のことである。

2、丹後の元伊勢

以上のことから

倭の皇居に祀られていた天照大御神が伊勢に鎮座するまでに遷幸した各地の宮が「元伊勢」と云われている。（内宮の元伊勢）
丹後は更に、吉佐宮に居た豊受大神が天照大御神に呼び寄せられ伊勢に遷宮したことも加えて、「別格の元伊勢」といえよう。

（内宮、外宮の両宮の元伊勢）

丹後には元伊勢と云われる神社がいくつかあり、
どこも天照大御神や豊受大神の由緒ある神社である。

「日本書紀」や「倭姫命世記」に記されている「吉佐宮」はどこだろうか？



今回訪れた元伊勢と云われる神社他

①、元伊勢籠神社、真名井神社

本宮；籠神社、

御祭神；主神；彦火明命、（オシオミミの子、ニニギの弟、宮司海部直の始祖）

神代から養老元年（AD717）までは彦火火出見命

（=ホオリ=山幸彦、ニニギの子）が祀られていた。

相殿；豊受大神、天照大神、海神、天水分神

別稱；元伊勢大神宮、丹後之国一宮、

神代に彦火火出見命（彦火明命の別名とも伝えられている）が、籠船にて龍宮（海神の宮）へ行ったという伝えにより、籠宮と云われている。

養老3年（AD719）、奥宮真名井神社から現在の籠神社本宮に遷し、御祭神を彦火明命とした。

宮司は元初から海部氏でその系図は現存する日本最古の系図として国宝に指定されている。



元伊勢籠神社



天橋立の松林は籠神社の参道である。

奥宮；眞名井神社

御祭神；磐座主座；豊受大神

磐座西座；天照大神、伊射奈岐大神、伊射奈美大神

別稱；豊受大神宮、比沼眞名井

古稱；匏宮、吉佐宮、与謝宮、久志浜宮

崇神天皇の御代 39 年（59BC）に天照皇大神が大和笠縫邑から遷座、豊受大神とともに祀られた。古くは匏宮（よさのみや）といわれた。

ヨサとは神に天の眞名井の水を捧げる器のこと、ひょうたんのことである。

天照皇大神はここに 4 年間鎮座の後、各地を遷幸し、

垂仁天皇の御代 25 年（5BC）伊勢に遷宮した。

豊受大神は雄略天皇の御代 22 年（AD478）伊勢に遷宮した。



眞名井の御神水



眞名井神社

②、ひぬまない比沼麻奈為神社、ふじこそ藤社神社

比沼麻奈為神社；（御祭神）豊受大神

天照大御神が呼び寄せた御饌の神「豊受大神」は、この地から伊勢に遷宮された。

その元のお社に御分霊を留めてお祀りしている。



比沼麻奈為神社の入り口



比沼麻奈為神社の本殿

④、元伊勢内宮皇大神社・元伊勢外宮豊受大神社

両神社とも福知山市大江町にある。(大江山の鬼伝説の地でもある)
元伊勢内宮皇大神社

御祭神；天照大神

脇宮に栲幡千々姫命（本殿左）、天手力雄命（本殿右）

元伊勢の伝承地のひとつ一つで「丹波国乃吉佐宮」の旧跡にあたる。

奥宮に天岩戸神社がある。



元伊勢内宮皇大神社



元伊勢内宮皇大神社の本殿と脇宮



ここにも眞名井の池



奥宮の天岩戸神社

元伊勢外宮豊受大神社

御祭神；豊受姫命

「豊受」を“とゆけ”と読む。祭神は女神である。



元伊勢外宮豊受大神社



元伊勢外宮豊受大神社の本殿



本殿に向って左側、八百万の神々が祀られている



本殿に向って右側も多くの神々

元伊勢と羽衣伝説についてひとこと

「丹後国風土記」逸文に

「丹波郡の西北の隅の方に比治の里あり。その里の比治山の頂きに井あり。その名を真井という。今はすでに沼となれり。

その井に天女八人降りてきて水を浴みき」とある。

有名な羽衣伝説で、この天女の一人が羽衣を隠されて天へ帰れなくなった。

この天女が、竹野郡の奈具社に坐す豊宇賀能売命である。という。

(注) 比治の「治」が「沼」となって比沼となったのではないだろうか？

そして、比沼の真井が→比沼真名井・比沼麻奈為の漢字表示となったのだろう。